

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年10月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0893100032		
法人名	株式会社 スマイルタウン		
事業所名	スマイルタウン	ユニット名	Aユニット
所在地	〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡3968-2		
自己評価作成日	平成26年3月28日	評価結果 市町村受理日	平成26年10月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=rue&JigyosyoCd=0893100032-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年4月23日	評価機関 決 済 日	平成26年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

住み慣れた地域や家族から孤立することなく施設にいても安心して、自立した生活を送ることができるよう支援を行っています。

職員の年齢層は20代～60代後半と幅広いですが皆、元気で活気があり、優しさと笑顔を忘れず、明るくアットホームな雰囲気作りを目指しています。利用者一人ひとりの思いを大切に、人としての尊厳を守りながら、日々の生活を明るく、楽しく過ごすことができるよう、生活の支えを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は住宅地に立地しているが、周辺は畑に囲まれた閑静な場所にあり、事業所敷地にも自家菜園と花壇があるため、利用者は季節を感じながら日々過ごすことができる。

近隣住民が年間を通じて事業所の花壇と畑の世話をしてくれており、野菜の収穫時には利用者と職員も地域住民と一緒に収穫作業を行って交流するとともに、自家菜園で収穫した季節の野菜を食材に取り入れている。

運営推進会議で地域住民より「災害の際には地域住民を受け入れて欲しい」との要望があり、事業所は承諾している。

病院受診の際には職員が同行するほか、週1回協力歯科医療機関の医師による訪問歯科診療があったり、週2回協力医療機関の看護師が来訪したりして、利用者が健康に過ごせるよう支援をしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議などで理念の共有と確認をしています。職員の入れ替えが激しい中、理念の共有と確認をし、実践に繋がるように努めています。	設立時に代表者と全職員で地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関に掲示している。 管理者は月1回の全体職員会議で理念の意義を説明し、一部の職員は印刷した理念を名札の裏に携帯しているが、全職員で理念を共有するまでには至っていない。	設立時からの職員が少ないこともあるが、管理者と職員で理念を共有できるような機会を増やすよう工夫することと、職員が常に理念の確認ができるように、各ユニットの見やすい場所に理念を掲示することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する農家の方々、区長、民生委員、ご家族との交流は定期的に行っています。また、随時ご利用者の希望のよっては、買い物へ出かけたり、床屋さんへ行ったりしています。	職員と利用者で事業所周辺を散歩する際には、地域住民と挨拶を交わしている。 隣接する農家の方が事業所の畑と花壇を年間を通じて世話をしてくれており、収穫には利用者と職員も一緒に行い、地域住民と日常的に交流している。 地域の高校生を長期就業体験で、一人あたり14日間として数名受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症についての対応方法を地域、行政の方の意見を含め検討しています。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、施設での出来事や事故報告などしています。そして、地域、家族、行政の方の意見をいただきサービスの向上に活かしています。	運営推進会議は家族等や村役場職員、地域包括支援センター職員、区長、民生委員で構成され、2ヶ月に1回開催し、利用者の様子や事業所の運営状況などを報告している。 家族等には事業所の広報紙「スマイルタウンページ」で運営推進会議の日程を知らせ、常に3名から4名が出席している。 出席者から「災害の際に利用者の状況が分かった方が良いのではないか」との提案を受け、玄関に部屋のレイアウトと車いす利用などを記号で記し、利用者の状況を掲示したり、「災害時には近隣住民を受け入れて欲しい」との要望があり、受け入れを承諾したりしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者と運営推進会議や面談にて、相談など受けていただいています。	管理者は要介護更新申請等の書類の提出は郵送せず、役場に出向いて担当職員と面談する機会を多くし、その際に利用者の状況などを報告したり、利用者の困りごとの相談をしたりしている。 運営推進会議の案内等も手渡しとし、その際に担当者から情報提供を受けるなど、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議などで勉強会実施、身体拘束に関するポスターの掲示にて、身体拘束を行わないように意識付けを行っています。	身体拘束廃止に向けたマニュアルを作成したり、玄関の壁面に「身体拘束のない介護の指針」を掲示するなど、全職員が身体拘束の弊害を正しく理解ができるよう工夫している。 両下肢大腿部切断の利用者と家族等から「車いすで自由に動きたい」との要望を受け、書面で同意を得て車いすからの転倒防止のためベルトを着用し、経過観察記録を付けている。 玄関はオートロック式で内側からは自由に外に出られ、外からはブザーを鳴らして解錠してから入るなど、防犯も考慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は外部研修などに参加し事業所内で虐待が防止されるように努めています。また全体会議などで話し合える場を設けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	不定期で権利擁護の研修に参加しています。また、必要性があるときは、関係機関と連携しご利用者を支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、1つ1つ順を追って説明し、疑問点など確認しながら進めています。最終的にご理解、納得いただけたら契約となります。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設意見箱、運営推進会議での意見など全体会議で話し合い、運営に反映できるようにしています。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに、玄関に意見箱を設置している。 利用者からは日常の問い合わせや会話の中から要望を聞き、思いにそえるよう支援をしているほか、家族等からは来訪時や電話連絡時に意見や要望を聴くように努めている。 家族等から職員の服装についての指摘や「利用者の食事の際は利用者がばらばらに食事を始めるのではなく、一緒にスタートした方が良いのではないか」との意見を受け、管理者と職員は出た意見を運営に反映させ、改善している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議を実施。代表者、管理者含め全職員が参加し、話し合える場を設けています。また個別に意見、要望があれば、いつでも聞けるように心がけています。	代表者と管理者は月1回全体会議を開催して職員の意見や提案を聞く機会を設けるとともに、管理者は半年に1回職員との個別面談を行い、日頃から意見等を気軽にさせる雰囲気づくりに努めている。 職員から車いすの利用者も安全に入浴ができるように、シャワーキャリー購入の提案を受け、運営に反映させているほか、職員が働きやすい勤務体制への変更の要望などにも対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループホーム協会や他ホームの情報など参考にしながら一般に支払われる賃金に格差が無いようにしているようです。又、職員のスキルアップに繋がるように資格手当など賃金アップを行っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月全体会議に、職員研修の時間を設けています。社外の研修も不定期ながら、希望者を募り参加させています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ケアマネジャー協会による勉強会、外部の研修などを利用し他事業所と交流する機会と情報交換などを行いサービス向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査段階で本人が困っていること不安なことなどを聞き取り、全職員に情報提供を行い本人が安心できるような対応を検討実施しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談時よりご家族の心配事、不安なことなどに耳を傾けています。またサービス利用段階でも不安なことが無いか確認しながら、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状のサービスに止まらず、必要なら他のサービスも視野に入れ最善の対応に努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の意向を聞きながら、汲み取りながら、共に過ごす者同士それぞれの役割や力を発揮できる環境作りをしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の行事や各月の運営推進会議などご家族が参加できる機会作りをしています。また面会や宿泊も自由にしていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に面会の制限をしていません。馴染みの方などいつでも来ていただいています。また希望があればこちらからも行けるよう支援しています。	利用者の家族等や親戚が来訪した際には好きな場所でゆっくり話ができるよう配慮しているほか、利用者が家族等や知人に電話をする際には支援をしている。 ドライブを兼ねながら利用者の元の住まいを見に行ったり、トラックの運転手だった利用者の馴染みの道路を走ったりして、利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう取り組んでいる。 職員が同行できない場合は利用者の思いを家族等に伝えており、利用者は家族等と一緒に墓参りや行き付けの美容院に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支援の一つとして座席の位置などは、ご利用者同士の関わり合いがストレスなく保てる場所を観察・把握し、座っていただいています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所となっても必要に応じて、いつでも相談を受けられるようにしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族との面談やアセスメント、日頃の様子などを元に、思いや意向の把握に努めています。	職員は利用者の生活歴を把握するとともに、会話や表情などから思いや意向の把握に努め、新しく把握したことは専用の記録簿を作成して全職員で共有している。 職員は利用者の「饅頭が食べたい」などの要望にそって出勤時に買ってくるなど、利用者の思いにそった支援をしている。 思いを表わせない利用者の中には、家族等から話を聞くとともに、表情やしぐさなどから思いを汲み取るように努め、利用者本位に検討して支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前調査やご家族からの情報、入所後アセスメントなどを活用し、これまでの暮らし方、これまでのサービス利用の経過などの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の関わりの中、入浴、食事、排泄、会話、レクリエーションなどの様子から、ご利用者個々の状態を記録し、会議や、カンファレンスで話し合いを持ち、ご利用者の現状把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は、日頃のご利用者の様子や本人の希望に沿いながら、ご家族、関係者のご意見やアイデアを反映するよう心がけています。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望を反映させ、計画作成担当者と利用者の担当職員で作成している。 週1回のカンファレンスと3ヶ月毎のモニタリングを実施し、短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月毎に見直しを行っているが、日付の記録や介護計画書を個人毎に整理するまでには至っていない。 心身の状態に変化が生じた場合には、随時現状に即した介護計画に見直している。	作成した介護計画書は作成した日付を記載して個人毎に管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画はいつでも確認できる場所にあり、計画の実践記録などで話し合っています。また、その記録や話し合いを参考に介護計画の見直し等しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に出てくるニーズに対して、既存のサービスで不足しているならば、他に何ができるのか検討し、対応できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・不定期ですが、地域の方でボランティアの見守りやレクリエーションをしてくださっています。 ・今まで暮らしていた生活圏のスーパーや理美容の利用をするようにしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には今までのかかりつけ医の受診を続けられるよう支援しています。また、希望があれば施設協力医療機関へ引き継いでいます。	利用者や家族等が希望する医療機関での受診を支援し、職員は利用者のかかりつけ医や協力医療機関での受診に同行している。受診結果は家族等の来訪時や電話で報告するとともに、個人ファイルに記載している。週1回協力歯科医療機関の医師による訪問歯科診療と、週2回協力医療機関の看護師の来訪があるなど、利用者の健康管理をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の身体、精神状態の様子、変化など記録、報告、職員間通達をしています。また訪問看護師に相談や協力医療機関の受診を支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の定期受診時や訪問看護来所時を利用して、情報交換や相談などをして普段より関係づくりをしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人・家族と話し合いを行い、主治医の意見を受けながら、当施設で何ができるのか、できないのか説明をし理解を得ながら支援をすすめるようにしています。	「スマイルタウン看取り介護指針」を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して意向を確認するとともに、書面で同意を得ている。 重度化した場合や終末期の支援についてはマニュアルを作成し、利用者や家族等の意向を踏まえたうえで医師の判断のもと、管理者や職員、医師等の関係者で方針を共有し、支援に取り組むこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議などで高齢者の身体についての勉強会を行っています。また現場ではご利用者の心身の変化に気をつけ、報告・連絡・相談・確認をするよう指導しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回夜間想定での避難訓練を実施しています。実施後には反省会や振り返りを行い、次の訓練に活かしています。又地域の方には施設訓練の様子など報告しています。	夜間想定を含めた総合訓練を年2回実施し、内1回は消防署立ち合いで実施するとともに、避難訓練実施後に職員の全体会議で課題や反省点を話し合っって記録し、改善に努めている。 運営推進会議等で、近隣住民の参加が望ましいとの意見や事業所からも近隣住民へ参加の呼びかけはしているが、参加を得るまでには至っていない。 災害に備えて米や飲料水、缶詰などの食料品のほか、衛生用品は常に大目に在庫として備蓄し、懐中電灯なども備えているが、リストを作成するまでには至っていない。 近隣住民から井戸の使用の提供もあり、自家発電機を備えている。	避難訓練の際に近隣住民の参加が得られるよう工夫することと、災害時の備蓄品のリストを作成して無駄のない備蓄と常に3日分程度の在庫が管理できるようにすることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議などご利用者の人格の尊重とプライバシーに関しての勉強会を行ったり、勤務の中で管理者や職員が気がついた気になる対応や言葉かけなども全体会議などで指導、助言、話し合いを行っています。	職員は利用者に丁寧に話しかけるなど、一人ひとりの人格を尊重した対応に努めており、トイレ介助や入浴時には誇りやプライバシーを損ねないように対応しているほか、排泄の失敗の時はさりげない言葉かけでトイレなどに誘導している。 個人情報に関する書類は事務室の奥の鍵のかかる部屋に保管し、情報漏洩に留意している。 写真など、広報誌への掲載や事業書内の掲示については、書面で利用者と家族等の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は出来る限り一声かけて自己決定を（伺う）促すようにしています。また表情や動作などを見て何を希望しているのか、汲み取れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員も1日の掃除洗濯などの業務に責任を負いながらも、ご利用者を優先し、今できる限りの対応と支援が出来るよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日1日希望される服装にて過ごしていただいています。又、職員からもその人らしさを大切に散髪や毛染めなどお声掛けをさせていただいています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の持っている力に沿った食事の準備や方付けをお願いしています。その日によって出来ること出来ないことがあるので、無理が無いよう考慮しています。メニューのおかずについて、好き嫌いがある場合は変更等の対応をしています。	献立と食材は宅配業者に委託し、職員が調理をしている。 自家菜園の野菜を食材に取り入れたり、正月や雛祭りなどの行事食の際には、利用者の好みに合わせた献立にするなど、食事が楽しいものとなるように工夫している。 利用者は能力に応じて野菜の下ごしらえや下膳、テーブル拭きなどの役割を担っている。 外食を希望する利用者は職員や家族等と出かけている。 昼食は職員一人による見守りや介助を行い、職員は利用者と一緒に食事は摂らず、別室で休憩を取りながら交代で食事をしているため、職員と利用者で会話をしながら和やかな雰囲気での食事とはいえない。	事業所の特性を踏まえて、職員も利用者と同じ食事を摂り、会話をしながら楽しめるものとなるような環境づくりを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは食材を頼んでいる業者（管理栄養士）により管理されています。また、ご利用者個人の食事量や水分量はその都度記録し状態の変化などあれば、必要に応じて主治医への相談等しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促しています。本人の力に応じ職員がお手伝いしたり、週1回の訪問歯科受診で対応している方もいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の毎回の排泄を記録して、排泄パターンを把握しています。その記録を参考にトイレ誘導や、声掛けにてトイレでの排泄が継続できるよう支援しています。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行うとともに、時間を決めて誘導したり、利用者の様子から声かけをしたりしてトイレでの排泄を促している。 職員の適切なトイレ誘導により、おむつからトレーニングパンツになるなど、改善につながっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量の管理、排泄記録、本人訴えによる便秘の確認をしています。また自然に排泄ができるようにトイレ誘導や飲食物での便秘解消などの工夫を優先し、必要に応じて医師に相談しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には1日おきの入浴となっています。希望により入浴ができるように支援しています。	浴室には大きな窓があり、外の自然を感じながら入浴ができる造りとなっている。1日おきに午前中の入浴を支援しているが、風呂は毎日沸かし、利用者の状態や希望にそって毎日入浴したり、入浴日や時間帯を変えたりして個々に応じた支援をしている。入浴を拒む利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えて声かけをするなど、工夫して入浴ができるよう支援するとともに、入浴ができなかった利用者には清拭や足浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	配茶の時間や食事の時間はおおまかに決まっていますが、個々に希望があれば時間を変更して対応もしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬剤情報はいつでも確認できるようにしています。また主治医の指示による服薬変更時などは特に体調の変化が無いか記録するようにしています。また体調の変化等あった場合は管理者に報告するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	盆栽のお手入れや、洗濯家事手伝い、職員の手伝いなど自然と役割りを持って行っていただいています。また、月1回の季節に応じた行事など楽しんでいただければと開催しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的に戸外に出かける時は職員が同行してしていますので、お買い物、散歩、洗濯干し、野菜の収穫などで対応しています。また普段行かないような場所等も、前もって計画してご家族の協力のもと出かけられるよう支援しています。	天気の良い日は事業所の敷地内を散歩したり、居間から出られるウッドデッキで外気浴ができるように支援をしたりしているほか、近隣の散歩には職員が同行している。 近所の神社に初詣に出かけるのを始めとして、季節に合わせた花見や梨狩り、ぶどう狩りに出かけたり、大洗水族館に出かけたりしている。 職員が同行できない場合は利用者の希望を家族等に伝え、利用者は家族等と一緒に墓参りや外食などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人希望により金銭管理をしている方もいます。お預かりしている方のお金は希望時いつでも使えるよう対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は、ご家族の都合や約束事がなければいつでも電話をかけていただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内部の作りはご利用者が混乱しないよう直線状に作られ1本の廊下で行き来できます。共有空間のウッドデッキからは施設管理の畑を見ることができ、季節に沿った野菜の収穫などに参加したりしています。	居間兼食堂は天窓が多く、ウッドデッキに出られる大きなガラスの引き戸が設置されているため、自然な採光で明るく、爽やかな風を取り入れられる造りとなっている。 職員は換気や温度調節に気を配り、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。 利用者の安全に配慮して廊下やトイレ、浴室には手摺のほか、介護用浴用椅子を配置している。 職員は花壇に季節の花を植えたり、利用者と一緒に自家菜園のネギや茄子など、季節の野菜を収穫したりして季節を感じながら過ごせるよう工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間におけるご利用者の居場所は、ご利用者自身で決めることが多く、いつも座る場所が所定の位置として根付いているようです。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室の家具など使い慣れた物の使用に制限はありません。ご本人の希望を大切に居室の環境を整えています。			居室にはエアコンやベッド、箆笥が備え付けられている。 利用者は使い慣れた寝具類や洋服掛け、テレビ、テーブルなどを持ち込み、時計やカレンダー、職員から誕生日に贈られた品物などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的に施設内では、ご利用者の意思を尊重して自由に生活していただいています。その中で生まれた「できること」「わかること」が達成できるよう支援しています。			/

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 スマイルタウン

作成日 平成26年10月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	管理者と職員で理念を共有する機会がない	理念の共有ができる	朝礼で理念の唱和をしている	H26/5～H26/10
2	35	災害対策備品リストがない 3日分の備蓄がない	備品リストを作成する 3日分の備蓄品が準備できる	備品リストの作成 少しずつ備蓄品を準備していく	H26/5～H27/5
3	40	昼食時に、ご利用者が楽しく食事ができる工夫がない	少しでもご利用者が楽しく食事ができる	ご利用者が何を楽しみとし食事をするのか検討し、実施してみる	H26/5～H26/12
4	26	介護計画書を個人毎に確認しづらい	ご利用者個人毎に介護計画を確認しやすい工夫ができる	個人毎に介護計画をファイルしていく	H26/5～H27/5
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。